

学校だより 7月号

城南

学校教育目標 「自立の基礎を養う～自分のことは自分で～」 児童数100

梅雨開けは・・・

今年の梅雨入りは6月7日頃でした。しかし、一度雨が降っただけでほとんど空梅雨でした。ここに来て前線が北上し、雨が降ったり曇天が続いたりしてきています。蒸し暑さもあり、疲れがとれにくい状況です。水分補給や早めの就寝等に気をつけて、梅雨を乗り切りましょう。

一輪車、大募集！

昨年度から女子の間で、休み時間に一輪車乗りの練習をする姿が見られるようになってきました。農作業に使う一輪車ではなく、遊びや体育で使う一輪車です。

当初は、錆び付いた一輪車の空気を入れ、虫ゴムを取り替え、何とか4台ほどの一輪車で数人の女子が遊んでいました。本年度になってから高学年の女子が毎日遊ぶようになり、運動場を一周とか、二人で手をつないでその場を回るとか、随分うまく乗ることができるようになってきました。バランス感覚が素晴らしい！！その姿を見て低学年の女子も興味を持つようにもなってきました。

そこで、もう少し台数を増やしてやりたいとPTA執行委員会で話したところ、山下副会長さんが使えなくなっていた一輪車の部品を組み合わせて、また錆を落としてきれいに塗料を塗ってくださり、現在7台が使える状態になっています。大変ありがとうございます。

一輪車は自分の身長に合わせて使うのですが、他の人が使おうにも毎回高さの調整を子どもの手で行うのが難しく、子ども達から「もう少し台数を増やして欲しい」という声を聞きます。学校の予算では購入が不可能（予算流用不可）で、子ども達の要望に応じてやる事ができません。

城南小学校では、10数年前に一輪車ブームがあったそうですね。そこで、地域のご家庭の中で不要となった一輪車がありましたら学校に寄贈していただけないかと思えます。壊れていても、錆びていても、空気が抜けていてもかまいません。誠にむしのよいはなしですが、ご協力いただけましたら本当に助かります。

ご寄贈くださる方は、城南小学校までご連絡ください。頂きにはせ参じます。

TEL 086-954-0700 教頭：遠藤

発達障害について

現在、検査方法の発達もあり、児童の約10%に何らかの障害や特性があるとも言われています。こだわりが強い、その場の空気が読めない、相手の思いが分からない、じっとしてられない、・・・誰にでも多少はこのような傾向があるものの、何とか周りの状況に適応しながら過ごしているのではないのでしょうか。

あんなに頑張っているのに学力の定着が難しいとか、直感力は優れているのに言葉に抵抗感が強いとか、素晴らしい長所がありながら全体の動きに合わせられないとか、学習中に絶えず体が動き回り集中できないとか、ちょっとしたことでも我慢できず切れやすいとか・・・、素直で優しい城南小の子ども達の中にも、苦しんでいる子どもが見られます。

そのような子ども達のことを、毎日毎日一緒に生活や勉強をしながら観察している学級担任は心配

しています。気になっているお子さまについて、7月20日（木）からの個別懇談でお話させていただきます。そして、発達検査をお願いすることもあります。

この発達検査で、すぐに特別支援学級への入級ということではありません。重要なことは、発達検査の結果からおさまの実態を正しく知ることです。実態を知ることによって周りの者が関わり方を工夫したり、その実態に応じた指導ができるようになっていきます。おさまがこれからの人生を幸せに生きていく上で、とても大切なことです。逆に不幸なことは、特性がありながら周囲の人達に理解されないことです。学年が上がれば自然によくなるものではありません。むしろ困難な場面が増えてしまうこともあります。

城南小学校には、「つばさ学級」と「ひまわり学級」の二つの特別支援学級があります。通常の学級の大人数ではできない

- ・その子の実態に応じたきめ細かな指導を受けられる
- ・周りの人の言動に左右されにくく落ち着いて学習に臨める
- ・学校の中に落ち着ける居場所がある
- ・人との関わり等をじっくりと身に付けられる

等々の良さがあります。この学級で生活や学習をおこなった方がおさまのためになるかどうかで入級をお勧めすることがあります。どうぞご理解ください。

蛇足ですが、一昔前にあったような「あの子は、あの学級だ」というような偏見はありません。城南小学校では、みんな友達、みんな仲間です。みんな良さがあり、また課題も持っています。

また、「特別支援学級に入っていると、高校進学に影響が・・・」という声も聞かれますが、心配はありません。特別支援学級に在籍している子どもには、一人一人の実態に応じた配慮や進路指導がなされます。ところが、在籍していない子どもに落ち着きがなかったり、頭髪や服装等が目立っていたりすると生徒指導上から評価が厳しくなります。

一番肝心なことは、その子の実態を正しく知り、その子の実態に応じた教育をすることです。そのために我々教員がいます。どうぞお気軽にご相談ください。一緒に子ども達のために頑張りましょう。

頑張った海事研修！！！！

6月13日（火）～15日（木）に5年生24名の児童と仁美小4名の児童と、2泊3日の海事研修で渋川青年の家に行きました。好天に恵まれ、砂の芸術、スコアオリエンテーリング、貝殻キーホルダー作り、海洋博物館見学、いかだ遊び、カッター研修、海岸散策～海ほたる観察、地引き網と多くの活動を行い、充実した3日間を過ごしました。特に、私が感心したことを列挙します。

- ・ 仁美小4名の児童と大変和気藹々で、より一層仲良くなったこと。
- ・ 同宿校（早島小、桜が丘小、新庄小）約250名の前で、林萌衣さんが堂々と学校紹介を行ったこと。学校紹介には4名の児童が立候補したそうである。
- ・ 海事研修の歌を他の学校よりも大きな声で歌ったこと。
- ・ 移動中には渋川の先生をはじめ、同宿校の先生や児童に進んであいさつをしていたこと。
- ・ 同宿校との交流会では、姿に照れることなく進んで他校の児童と関わっていたこと。
- ・ 次の活動に備えて自分たちで時間を過ごし、5分前にはそろっていたこと。そして、先生の話をよく聞き、活動に集中していたこと。
- ・ 28名ではびくともしなかった1.5トンのカッターを全員が本気で頑張り、6回目ぐらいには海に押し出せたこと。また、泣きながら力を合わせてオールを漕ぎ、約3Km先まで行って戻ってきたこと。全員の子どもの顔が充実感で満たされていた。
- ・ 退所前の厳しい部屋の点検では、男子は1回で合格し、女子も2回で合格したこと。室長であった長田羽瑠君、林萌衣さんを中心に全員が頑張っていたこと。
- ・ 退所式後の同宿校全員の感想発表で、南部匠史君が手を上げ、臆することなく発表したこと。

【文責：中西伸司】